



六月を

綺麗な風の

吹くことよ

まさおかしき
(正岡子規)

雨に濡れた庭の岩が黒い光を放ちながら堂々と座しています。

「日本の庭で一番美しいのは『岩』です」と観光客が話されていたのを思い出します。この季節、雨に濡れたあじさいやバラの花かと思っていましたが「岩」と言ったことに驚きました。

庭園の岩。私たちが目にするのは岩の実相（本当の姿）の半分以下です。庭を飾る晴れやかな植木やあでやかな花の陰で、岩の半分以上は土に隠れています。その岩が美しいと表現した感性に驚くとともに、岩と人の姿（こころ）が二重写しになりました。鏡に映った己が姿を見ると、人は自分をより強く意識します。自分の生きている価値と存在が鏡の中に強く映し出されるといいます。

数年前、電車で飛び込む自死を防ごうと、ホームに鏡を設置した駅がありました。鏡に映る姿を見ることで、自死を思いとどまる効果を狙ったものでした。自分の姿が映し

出されることで、親兄弟の顔やふるさとの風景、小さい時の思い出、見えていなかった自分の姿、生きている尊さや自らの存在が見えてくるからです。

さて、地球を鏡に映すことはできません。長く地球の実像を知らなかった人類は、1968年に1枚の写真を手にしました。月を回るアポロが写した地球は、漆黒の宇宙に青く、はかなげに浮かんでいました。

「地球は青かった」
その写真は人々の地球愛をかき立てました。

1970年代にかけて、アースデー（地球の日）制定など環境運動の波が世界に広がりました。今を生きる私たちは、2050年までに、世界の温室効果ガス排出を減らし、かけがえのない地球を次世代に受け継いでいかななくてはなりません。温暖化から地球を守る先導な役割を、まず、自然豊かな指宿が果たさなくてはなりません。

宇宙に最も近いまち「内之

浦」に勤務していた時、全国宇宙少年サミットを開催しました。その時のテーマが「守れ！水と緑の星地球」でした。水と緑の星を守るために、子どもたちから多くの注文や意見が出されました。水、太陽、風力、地熱、バイオマスなどの自然エネルギー、再生エネルギーの開発、活用は待ったなしで、私たちが取り組むべき重要な課題です。

「年月は、人間の救いである。忘却は、人間の救いである」
太宰治の言葉です。忘れ去ることも時には必要でしょうが、環境の問題について、忘却を救いとするようでは困ります。綺麗な風が子どもたちの未来に吹きますように。「ストップ！ザ・地球温暖化」後世が成り行きを見つめています。



指宿市長
豊留悦男